

平成24年11月12日  
土 木 部

## 第1回「貞山運河再生・復興ビジョン」検討座談会を開催しました

### 【経緯】

東日本大震災において甚大な被害を受けた沿岸地域の復旧・復興に際して、津波減災効果の可能性のある歴史的な土木遺産「貞山運河」を基軸として、各種の復興関連事業を一つのグランドデザインに沿って連携・展開し、安全・安心でより魅力的な沿岸地域の形成を図るために「貞山運河再生・復興ビジョン」の策定を進めており、この度、第一回目となる学識者等による検討座談会を開催した。



### 【座談会の概要】

- 日時 平成24年11月5日（月） 18:00～20:00
- 会場 県庁11階 第二会議室
- 議題
  - ・ 検討の進め方
  - ・ 貞山運河の歴史・現状等について
  - ・ 貞山運河の被災状況と津波減災効果の検証について
- 委員 竹村 公太郎（公益財団法人リバーフロント研究所 代表理事）【座長】  
神尾 文彦（榊野村総合研究所 社会システムコンサルティング部 部長）  
越村 俊一（東北大学 災害科学国際研究所 教授）  
高橋 幸夫（みちのくルネッサンスフォーラム 代表）  
田中 仁（東北大学大学院 工学研究科 教授）  
西脇 千瀬（地域社会史研究者）  
平吹 喜彦（東北学院大学 教養学部地域構想学科 教授）  
宮原 育子（宮城大学 事業構想学部事業計画学科 教授）

### 【「貞山運河再生・復興ビジョン」の位置付け】

- ・ 壊滅的に被災した仙台湾沿岸域では、沿岸市町において復興計画が策定され、各種の復興事業や被災した公共施設等の復旧事業が行われている。
- ・ 当該地域を縦断する貞山運河は、他の公共施設と同様に大きく被災し、平成27年度までに総額700億円規模の災害復旧事業を実施する予定である。

- ・ 震災前から貴重な土木遺産として様々な利活用策が行われてきた貞山運河の災害復旧事業では、単なる復旧に留まらず、築造400年を経た運河の歴史を未来へとつなぐ、新たな再生への取組が求められる。
- ・ こうしたことを背景に、貞山運河の復旧事業を核として、当該地域で行われる様々な主体による復興事業が、共通の復興理念のもとに推進されるよう、その指針となる計画が「貞山運河再生・復興ビジョン」である。
- ・ 当ビジョンは、県によるトップダウンの計画ではなく、当該エリアで実施される様々な主体による復興事業を集約し、貞山運河を基軸として、それぞれが共通の理念のもとに復興事業を実施していくための羅針盤の役割を果たすものである。

### 【議事要旨（抜粋）】

（ビジョン全般に関すること）

- ・ 仙台湾沿岸自治体の復興計画の共通キーワードが貞山運河であると感じた。
- ・ 災害復旧において景観に配慮してほしい。変わる部分と変わらない部分を見せる必要がある。
- ・ 貞山運河は県民の憩いの場でもあり、将来の財産とすべきである。
- ・ 利活用・観光振興と減災・避難は、両立が難しい課題であるが、注目を浴びて活性化するという視点が重要である。
- ・ 干潟など被災後の環境回復がみられており、環境保全の視点も重要である。

（津波減災効果検証に関すること）

- ・ 野蒜地区では運河を境に被害状況が異なり、津波が低まったとの住民の証言があった。
- ・ 運河は津波の初期到達を遅らせているが、貞山運河の減災効果を評価するには、運河そのものだけでなく空間的な分析による検証が必要である。
- ・ 運河が本来有する治水・環境面の機能と津波減災のバランスを取ることが重要である。

### 【今後のスケジュール】

- ・ 今年度末の策定・公表を目標として、沿川市町や関係機関, NPO 等から意見を広く聴取し、素案を取りまとめる。
- ・ 2回目の検討座談会は平成24年2月4日に開催する予定。

